

聖書に学ぶ人間教育
－ルカによる福音書を中心に－

Learning from the Bible about Education
－Mainly from the Gospel according to Luke－

山下 雅弘
Masahiro Yamashita

はじめに

神は「すべて以上の存在」であると考えます。また、神は「愛」であると考えます。

本文では、聖書を現実的に解説し、人間教育に関係すると考えられる箇所を一部引用し、直後に解説しました。他の視点も取り入れます。広く一般にも役立つことが幸いです。究極的には神のためになることが幸いです。

現代人は現代のルールを守るべきであり、差別には反対です。聖書の引用には、「新共同訳聖書」を用います。

本稿は、ルカによる福音書を中心に扱います。

レビ記19章

18復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

わたしたちは自分自身も愛さなければなりませんし、同様に身近な人々を愛することが大切です。

ヨブ記42章

2あなたは全能であり

御旨の成就を妨げることはできないと悟りました。

わたしたちは、すべてを知り尽くそうとすることも大切かもしれませんが、共に生き見守り、見守られていることを知ることが大切であると考えます。

詩編51編

19しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。

打ち砕かれ悔いる心を

神よ、あなたは侮られません。

わたしたちは心が打ち砕かれ悔い改める時に成長すると考えます。

箴言9章

10主を畏れることは知恵の初め

聖なる方を知ることは分別の初め。

主を畏れることは学問の初めであると考えます。すべてが自分から始まるのではないことや自分たちで頑張りさえすれば必ず幸せになれるのではないことを教えるのが人間教育の初めであると考えます。自分の強さだけを示しますと、教育を受ける側も自分の力だけに強く頼るようになることも考えられます。教える人も支えられていることを示すことも大切な人間教育であると考えます。

テサロニケの信徒への手紙一5章

16いつも喜んでいなさい。

17絶えず祈りなさい。

18どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

いつも喜んでいることは必ずしも易しいことではないかもしれませんが、何かを得た時だけが本当に幸いでは必ずしもないかもしれません。どこかに到達した時だけが解決の時ではないことも考えられます。

到達する過程に喜びがあることがあります。

コリントの信徒への手紙一13章

4愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

5礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

6不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

7すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

愛はわたしたちにとって非常に厳しいことでもあります。

コリントの信徒への手紙一13章

13それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

いつまでも残るために最も大切なものは、愛であると考えます。

コリントの信徒への手紙二12章

9すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。

わたしたちが認識する強さは色々あるかもしれませんが、逆説的ですが、弱い立場に立ってこそ発揮される力があるかもしれません。

ローマの信徒への手紙 3章

10次のように書いてあるとおりです。

「正しい者はいない。一人もいない。」

わたしたちは人間のルールの中では正しいことができますが、他の動植物を食べたりはします。わたしたちが悪いと考える状況でもそれは他の存在が生きなかったのに生きられなかった時でもあります。

また、わたしたちには決め付けることによりの外れな言動へ繋がることもあると考えます。

ルカによる福音書 1章

26か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。

27ダビデ家のヨセフという人のいいなづけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

28天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

29マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。

この出来事で、マリアが特に正しいから選ばれたとか、何かをしたために報酬や見返りが与えられたとは述べられていません。特別な努力をして選ばれた人にだけ主が共におられるわけではないようです。

ルカによる福音書 1章

38マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

徳が高いことは、頭が良く賢いことでもあると考えます。

ルカによる福音書 1章

47わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

自分の貧しさや弱さなどを恥じそこに止まるのではなく、そのような身であると思いながらも自分に与えられることに目を注ぎ生かして生きることが建設的な謙遜です。

ルカによる福音書 2章 イエスの誕生 (マタ 1 18-25)

1 そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。

2 これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。

3 人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。

4 ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

5 身ごもっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。

6 ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、

7 初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

イエスの生まれた家庭は、宿屋に泊まる場所がないほどに貧しかったようです。

ルカによる福音書 2 章 羊飼いと天使

8 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。

9 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。

11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

13 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

14 「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。」

15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。

16 そして急いで行って、MARIA とヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

17 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。

実際に天使がいるとは考えられませんが、ここで言われています「主の天使」と「主の栄光」は、野宿をしながら夜通し働いていた羊飼いたちの所に現れたということです。民に光を当てることからこのお話は始まっています。仕事に集中することは大切ですが、その上で視野を広げ見る所を変えますと喜びが見つかることがあります。これからの物語は、学者たちから羊飼いと広い職業の人々が大きな喜びを与えられる、広く役立つ教えであると考えます。素直な心で受け入れますと分かることがあります。謙虚な心でいるから喜ぶことができます。玄関からではなく煙突から象徴されるような思いがけない形でもたらされる幸運があるのかもしれない。

羊は特に牙が強いわけでもなく角が強いわけでもありません。特に足が速いわけでもありません。他の動物に比べ強さや特徴がありません。そのような羊は群れを成して生活していますがはぐれることがあります。羊は弱さの象徴であると考えます。羊飼いは規則を守れなくなるぐらいの24時間労働を強いられたようです。人にもそのような弱い部分があります。人を育てるためには24時間体制が必要であることもあります。そのような仕事も世の中を支えています。わたしたちは細かい所まで目が届かないことがあります、そのような所で認識が変わることもあります。

貧しい家に生まれた弱い幼子に可能性が宿り、救いを与えてもらえる可能性があります。貧しさを経験して育ちますと貧しい人のことがよく理解できます。そのような存在は探し当てにくいと考えます。幼子が育つためには多

くの人の様々な助けが必要です。

富や権力を持つ人がいるようになりますと貧しさや圧政に苦しむ人が出ます。人々が自分の中に豊かさを見つけ、分かち合いますと福祉が高まると考えます。

クリスマス物語は、一見価値が低い、希望が持てないと思われる所に価値を見つけることを教えていると考えます。わたしたちが見捨て、あるいは締め出しているかもしれない部分に気付く出来事でもあるかもしれません。幼子はいやしを与えてくれます。わたしたちの弱い所を出し合い、その価値を認め合い、時には変えることによりさらなる喜びが生まれます。絆ができ福祉が高まります。

クリスマスは、わたしたちが一つになれる時でもあり、愛されて生きていることを確かめる時でもあると考えます。絆があるために豊かになれることはあります。また、クリスマスは、わたしたちの弱さや貧しさなどに光を当て、その中でもまたそれ故に豊かに与えられる良いものに目を注ぐ時でもあると考えます。

マタイによる福音書 1 章

23 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

神は、わたしたちの良い時も悪い時も共に寄り添ってくださるような存在であるようです。わたしたちも他人とそのような接することができることは幸いです。

マタイによる福音書 2 章

10 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。

11 家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

クリスマス物語に登場する学者たちは占星術の学者たちで言わば未来予測の専門家です。それに囚われるより大事なことがあるかもしれません。占星術で先を見通すことは価値が高いかもしれませんが、今が大切であると考えます。幼子の未来がどのようなものであるかは分らない方が楽しみかもしれませんし予想する必要はないかもしれません。幼子が将来どうなるか予想することより、かわいいと思うことによりそれ以上の満足が得られます。幼子は教育する対象であるとともに、いやしや絆や気付きを大人たちに与えてくれる存在でもあることに気付く、このようなステップアップもあるかもしれません。

ルカによる福音書 2 章

34 シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。

35——あなた自身も剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

シメオンは納得して亡くなったと考えます。人は何に対しても反対すれば良いものではありません。心に驕りが

あるときにはイエスの言葉はつらく響くかもしれません。本心を確認できます。自分の考えが表現できると考えます。悔い改めはわたしたちが本当の自分の思いにまで立ち帰ることでありと考える。

神の前に正しく非のうちどころのない人でも救いは必要であり、救われ赦されて生きています。

ルカによる福音書 2 章

38 そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。

救いを待ち望むことは、自分の具体的な願望に支配され待ちくたびれるような待ち方ではなく、希望を持って待つことです。自分の具体的な願望は、その時考えていることです。希望は、自分の目標に到達することのみを中心に据えるのではなく、それ以上の価値に到達する可能性を信じて進むことでもあります。到達点を分からないままにすることで新しい状況を切り開いていける可能性が生まれます。先が見えないのに良くなることを信じられることは幸いです。待ち望むことは、その時答えや将来が見えなくても待つことを可能にします。

ルカによる福音書 2 章

49 すると、イエスは言われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」

子供が迷子になりましたら、親は心配し必死で捜します。イエスも両親のもとで暮らしています。しかし、いつか子供は自立します。完全に親が敷いたレールの上だけを生きるとは限りません。

子供に対して、親の見解は絶対であるという考えを変える効果があると考えます。子供だけがずっと悪いとは限りません。

親たちも子供たちと同様に生かされています。

ルカによる福音書 3 章 イエスの系図 (マタ 1 1-17)

23 イエスが宣教を始められたときはおよそ三十歳であった。イエスはヨセフの子とされていた。ヨセフはエリの子、それからさかのぼると、

24 マタト、レビ、メルキ、ヤナイ、ヨセフ、

25 マタティア、アモス、ナウム、エスリ、ナガイ、

26 マハト、マタティア、セメイン、ヨセク、ヨダ、

27 ヨハナン、レサ、ゼルバベル、シャルティエル、ネリ、

28 メルキ、アディ、コサム、エルマダム、エル、

29 ヨシュア、エリエゼル、ヨリム、マタト、レビ、

30 シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリアキム、

31 メレア、メンナ、マタタ、ナタン、ダビデ、

32 エッサイ、オベド、ボアズ、サラ、ナフシオン、

33 アミナダブ、アドミン、アルニ、ヘツロン、ペレッツ、ユダ、

34 ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、

- 35セルグ、レウ、ペレグ、エベル、シェラ、
 36カイナム、アルパクシャド、セム、ノア、レメク、
 37メトシェラ、エノク、イエレド、マハラルエル、ケナン、
 38エノシュ、セト、アダム。そして神に至る。

ヨセフまでは、ダビデの直系であるようですが、イエスはヨセフの実子ではないようです。ここでは神はアダムより前におられた存在であると考えられています。

家系があることにより社会ができます。家系における役目も大切です。親が、先祖、そして神を敬っていると、子供が親を敬うように育ちやすいと考えます。親が、先祖、そして神を敬うことも人間教育であると考えます。

ルカによる福音書 4章

- 3そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」
 4イエスは、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある』とお答えになった。

実際に悪魔がいてイエスにこのように言ったとは考えられません。イエスの中で聖霊に満ちたような状態に悪い誘惑をされるような部分が生じたと考えます。わたしたちにも両面がありますが、不適切な方への誘惑は退けなければならぬと考えます。

富、権力と繁栄を得ようとする、自分を救おうとするは一見望ましいことであると考えやすいですが、実はそれらを得ようとするはわたしたちを望ましい方に導かないことがあると考えます。

ルカによる福音書 4章

- 9そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。」
 10というのは、こう書いてあるからだ。
 『神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかりと守らせる。』
 11また、
 『あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える。』』

神は自分に都合の良いことだけをしてくれるような存在ではないと考えます。ここで言われています悪魔は「あなたのために」と言っています。それは必ずしも良いとは言えないと考えます。「自分のため」にこだわっていますと悪魔にとってあしらいやすくなります。人は本来自分のためだけに生きる存在ではないはずで、食べ物や権力と繁栄を自分や周囲のために得ていく過程で自分らしさが発揮されていくと考えます。

ルカによる福音書 4章

40日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。イエス

はその一人一人に手を置いていやされた。

イエスが病人たちを思い、一人一人に時間や労をかけることが奇跡的な感動を生むと考えます。望ましい生活習慣は健康に繋がります。柔軟な考え方が健康に繋がることもあると考えます。

ルカによる福音書5章 漁師を弟子にする（マタ4 18-22、マコ1 16-20）

- 1 イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。
- 2 イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。
- 3 そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。
- 4 話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。
- 5 シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」と答えた。
- 6 そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびたしい魚がかかり、網が破れそうになった。
- 7 そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。
- 8 これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしたちから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。
- 9 とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。
- 10 シモンの仲間、ゼバダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」
- 11 そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

わたしたちは能力や経験を持ち努力しさえすれば収穫が得られるとは限りません。わたしたち以外の周囲の力があることに感謝しなければなりません。それを受け入れることから発展は始まります。寄り添い、見守ってくれる人がいて収穫が得られます。そのことを認識することが収穫であるとも考えられます。弟子たちの、自分たちで頑張りさえすれば収穫が得られるという考えが変わったと考えます。

弟子たちは心を入れ替え新しい目標を持って生きることにしたと考えます。「人間をとる漁師になる」とは、人と共に生き教え育めるようになることであると考えます。イエスに寄り添ってもらうことにより、魚を獲る漁業に人間教育を加えることができると考えます。

教えるときは、自分が教わったことに対する感謝を学び直す機会でもあります。

ルカによる福音書5章 重い皮膚病を患っている人をいやす（マタ8 1-4、マコ1 40-45）

- 12 イエスがある町におられたとき、そこに、全身重い皮膚病にかかった人がいた。この人はイエスを見てひれ伏し、「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と願った。
- 13 イエスが手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去った。
- 14 イエスは厳しくお命じになった。「だれにも話してはいけない。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたと

おりに清めの献げ物をし、人々に証明しなさい。」

15しかし、イエスのうわさはますます広まったので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気をいやしていただいたりするために、集まって来た。

16だが、イエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。

病気を治療しようとするとともに、病人と一緒に何かできないかと考え、共に生きようとすることによって治療する以上の効用を与えることが可能になると考えます。優れた科学とともに、人を理解しようすることは大切です。生きるための支えは必要です。

イエスは、重い皮膚病を患っている人をいやしたり、大勢の群衆が集まって来てもなお祈っています。最後まで使命に忠実に生きてこそ、その人の使命が明確になることがあります。ただ病気を患っている人をいやしたり、教えたりすることだけがイエスの使命ではありません。短期間で断片的に判断しては見えないことがあります。

病気をいやすことに限らず、自分が考える成功以上の価値を生み出せることはさらなる発展に繋がります。苦しいことがありますとそれを乗り越え現状以上の価値を生み出しますとその時以上の発展に繋がると考えます。また苦しみがあることによりそのような可能性が広がることがあると考えます。

ルカによる福音書5章

24人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に、「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と言われた。

病気になるのは不節制などが原因であることもありますが、イエスは、病気をこの人が悪いからとばかり考えなくとも良いと導いたと考えます。病気であることは良くないと考えて失望しますが、支えてくれる周囲に感謝し病気を担って歩めば道は開けると考えます。

ルカによる福音書5章 断食についての問答 (マタ9 14-17、マコ2 18-22)

33人々はイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは度々断食し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じようにしています。しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています。」

34そこで、イエスは言われた。「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。」

35しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その時には、彼らは断食することになる。」

36そして、イエスはたとえを話された。「だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう。」

37また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を破って流れ出し、革袋もだめになる。」

38新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。」

39また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。『古いものの方がよい』と言うのである。」

努力すること、頑張ることは大切です。しかし、その場その時その場合にふさわしくない事や努力をしたら無駄になったり損失が出たりすることがあります。その場その時その場合に合ったことをしなければなりません。

わたしたちは他の存在を犠牲にして生きている部分があります。断食でなくても、時には他の存在を休ませることを考え、お腹を休めることで良くなることもあります。わたしたちは何かを得るために競争することもあり、他人に何かを分け与えることもあります。経済では公正な競争環境を整えることが必要であることもあります。

古いものの方が望ましい場合もありますが、古いものばかりが良いと言いますと新しくなりません。

ルカによる福音書6章

8 イエスは彼らの考えを見抜いて、手の萎えた人に、「立って、真ん中に出なさい」と言われた。その人は身を起して立った。

人を育み生かす中には、教育者だけが中心に立つだけではなく、育まれる人に真ん中に立ってもらう時があります。

端に追いやられている人が端にいたままでは良くない場合もあります。

ルカによる福音書6章 幸いと不幸 (マタ5 1-12)

20さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。

「貧しい人々は、幸いである、

神の国はあなたがたのものである。

21今飢えている人々は、幸いである、

あなたがたは満たされる。

今泣いている人々は、幸いである、

あなたがたは笑うようになる。

22人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。

23その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。

24しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、

あなたがたはもう慰めを受けている。

25今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、

あなたがたは飢えるようになる。

今笑っている人々は、不幸である、

あなたがたは悲しみ泣くようになる。

26すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

聖書にはこのような逆転の発想が見られます。発想だけでなく本当に逆になっていくことがあります。わたしたちも水や空気のように特別好きでもなく嫌いでもない必要不可欠な関係が最も望ましいのかもしれませんが。普通の奉仕をし続けると良くなるのにし損なうこともあります。人間の見解は絶対的でないことがあり逆を考えることも

あります。豊かさの中に貧しさがあり、貧しさの中に豊かさがあります。最初にお金持ちの人はあまり多く仕事をする必要がありませんし、お金をたくさん使ってしまうかもしれません。しかし、貧しい人々は貧しさを豊かに知っています。貧しい人々はへりくだるから高めてもらえ、勤勉であるから高まっています。必死で何かを求めます。必死で求めるとき絆が生まれます。発展や成長は絶対的なものではなく、それらにより何かが衰退することもあります。自分のことを貧しいとか問題があると思う人は神を求めやすいと考えます。そのような時は不遇であると思ってもまたそう思う故にそのまま進みますと安全であるとも考えられます。それが幸いそのものであるとも考えられます。他人が立つことができている立場に立つことにより豊かに分かり始めることもあります。

平和は皆で祈り続ける中で築かれます。自分たちの強さだけで築くことができるわけではありません。そのようなことを現実に応用することも大切です。

ののしられることは必ずしも望ましいとは考えられませんが、苦しい中でも前向きに生きることが大切であると考えます。ビジネスの経営状態は、始めから多くの利潤を持っていることは必ずしも幸いではないかもしれません。

これらの句は弱い人が強くなることができる道であると考えます。幸いという概念を見直し、何が幸いか何を幸いと考えることが望ましいか考える機会になります。

ルカによる福音書 6章

35しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。
36あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

貧しい人はしてもらいたいことを求め頼むことが大切です。富める人は貧しい人を心にかけ祈ることが大切です。「返してもらうことを当てに」するのは経済では常識です。実際には返済の当てなくお金を貸してはいけなないと考えますが、取り返そうとしますと等価交換になります。何の当てもなく人に善いことをすることにより恵まれより発展することは考えられます。信頼関係を構築することは大切であると考えます。

ルカによる福音書 6章

37「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。

人が人を裁き、悔い改めさせようとするべきではないかもしれません。そのような状況にならないようにすることが大切であると考えます。

ルカによる福音書 6章

47わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。

48それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。

土台のしっかりしたものを作るためには、イエスの言葉を聞き、それを行うことが必要であるようです。そのよ

うにしますと困難に直面しましても乗り越えられると考えます。

ルカによる福音書7章

7ですから、わたしの方からお伺いするのさえふさわしくないと思いました。ひと言おっしゃってください。そして、わたしの僕をいやしてください。

「ひと言」でその後の展開が大きく変わることがあります。

それほど大きな事ができなくても、適切なひと言の積み重ねが良い方へ導くことがあります。このような信仰もあると考えます。印象に残るひと言が大事な場合もあります。

信仰の厚い人の部下は元気になれると考えます。好ましいひと言は大切です。

ルカによる福音書7章 やもめの息子を生き返らせる

11それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちや大勢の群衆も一緒であった。

12イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出される場所だった。その母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。

13主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。

14そして、近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。

15すると、死人は起き上がってものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。

16人々は皆恐れを抱き、神を賛美して、「大預言者が我々の間に現れた」と言い、また、「神はその民を心にかけてくださった」と言った。

17イエスについてのこの話は、ユダヤの全土と周りの地方一帯に広まった。

実際に亡くなった人が起き上がってものを言うとは考えられません。親は子を亡くしますと、絶望し立ち直るのが困難になります。しかし、子は親の所有物ではありませんし、子を産むことも別れることも完全に自由に選択できるわけではありません。子は授かりものであったと考え、一緒に過ごせた時の充実感を思い出すことによって、再出発することができるようになります。親にとって子が新しい存在に思えるようになります。亡くなった子がそのようなことを気付かせてくれます。

悲しく、あきらめた状況に踏み込んで生きなければならない時があります。それは他人に頼ることかもしれません。独りになったこの母親に今以上の効用を与えるには、このように心にかける必要があります。

ルカによる福音書7章 罪深い女を赦す

36さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。

37この町に一人の罪深い女がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、

38後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に

接吻して香油を塗った。

39 イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。

40 そこで、イエスがその人に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがある」と言われると、シモンは、「先生、おっしゃってください」と言った。

41 イエスはお話しになった。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。

42 二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」

43 シモンは、「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「そのとおりだ」と言われた。

44 そして、女の方を振り向いて、シモンに言われた。「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。

45 あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わたしの足に接吻してやまなかった。

46 あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。

47 だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさと分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」

48 そして、イエスは女に、「あなたの罪は赦された」と言われた。

49 同席の人たちは、「罪まで赦すこの人は、いったい何者だろう」と考え始めた。

50 イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

罪深くても大きな愛を注げるのは赦されているからであると考えます。

しかし、借金を帳消しにするのは社会では赦されません。赦すことができることを見つけ行くことも大切であると考えます。わたしたちも多く赦されて生きています。

「赦されることが少ないならば、愛することは少ない」ということは、「愛することが多いならば、赦されることが多い」ということです。

周囲から多く赦されていることは愛の大きさと分かるようです。示すことができる愛の大きさが幸せの尺度であるとも考えられます。

ルカによる福音書8章 婦人たち、奉仕する

1 すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。

2 悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、

3 ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

自主的に奉仕したいと思えるようになるぐらいの教えやいやしを与え合えるようになることが望ましいと考えます。

ルカによる福音書8章 たとえを用いて話す理由（マタ13 10-17、マコ4 10-12）

9弟子たちは、このたとえはどんな意味かと尋ねた。

10イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、

『彼らが見ても見えず、
聞いても理解できない』

ようになるためである。』

イエスのたとえを用いた教えは、聞き手が意味を考えますと分かります。奇跡物語も実際に起こったというより意味を考えるべきであると考えます。わたしたちの見方が変わることであると考えます。

わたしたちに役立つような聞き方、捉え方が必要であると考えます。

ルカによる福音書8章 「ともし火」のたとえ（マコ4 21-25）

16「ともし火をともして、それを器で覆い隠したり、寝台の下に置いたりする人はいない。入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置く。

17隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、人に知られず、公にならないものはない。

18だから、どう聞くべきかに注意なさい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っていると思うものまでも取り上げられる。』

たとえの意味をよく考えながら聞かなければなりません。土台をしっかり身に付けることにより様々なことを受け止めることができるようになります。

ルカによる福音書8章

21するとイエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」とお答えになった。

実の母や兄弟には厳しい言い方ですが、これぐらい厳しさがあれば家庭も安泰に近づくことがあると考えます。

万一、実の家族間で理不尽なことが起こりましたら、家族以外に相談できる人がいることは幸いです。

新しいグループ像を探ることが必要である場合もあると考えます。

ルカによる福音書8章

24弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、おぼれそうです」と言った。イエスが起き上がって、風と荒波とお叱りになると、静まって風になった。

実際にこのようなことが起こるとは考えられませんが、自分たちの強さや賢さだけを示し過ぎますとわたしたちの間に波風が立つことがあります。わたしたちが一つになり全体が良くなることを考え実行しますとその状況は改善されると考えます。

ルカによる福音書 8 章

30 イエスが、「名は何というか」とお尋ねになると、「レギオン」と言った。たくさんの悪霊がこの男に入っていたからである。

周囲から多くの影響を受け悪い考えを持たされてはいけなないと考えます。一人の人として、自分はどうなのか、どのように考えるか、どのようにしたくてすべきなのか考え直す必要があることがあります。他人の言うことを気にし過ぎる必要はないと考えます。したい放題ではない方が良いと考えます。

ルカによる福音書 8 章

43 ときに、十二年このかた出血が止まらず、医者に全財産を使い果たしたが、だれからも治してもらえない女がいた。

44 この女が近寄って来て、後ろからイエスの服の房に触れると、直ちに出血が止まった。

実際にこのような状態の人が直ちに出血が止まるとは考えにくいです。

現代医学では治る病気も増えていきます。ですから、周囲の人が「病院へ行け。」などと言うだけでお医者様に治していただける場合もあります。ありがたいことですが、世の中にはすぐに解決できない問題もあります。「辛かったですよね。」などの言葉をかけることでいやされます。人々との向き合い方は大切で悪い部分だけを治そうとしさえすれば十分ではないことがあると考えます。残された時間を精一杯生きる生き方とそれを支えることも保健医療であると考えます。

信じることは難しいことでもありますが、この人には疑いがありません。恐れや不安、疑いのないことは望ましく、それらを突破できた先により良い状況があると考えます。安心と信頼が大切です。

ルカによる福音書 8 章

54 イエスは娘の手を取り、「娘よ、起きなさい」と呼びかけられた。

55 すると娘は、その霊が戻って、すぐに起き上がった。イエスは、娘に食べ物を与えるように指図をされた。

皆が「もうだめだ」とあきらめた先に踏み込んで行く必要があると考えます。そうしますと、次に何かが起こる可能性が生まれます。もうひと踏ん張りが必要であることや続きがあると考えることが大切であると考えます。

ルカによる福音書 9 章

2 そして、神の国を宣べ伝え、病人をいやすために遣わすにあたり、

3 次のように言われた。「旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も二枚は持ってはならない。

宣べ伝える時は、自分たちは十分に持っている、力が十分であることをアピールするのは適切ではないことがあると考えます。自分たちをギリギリの所に置いて宣べ伝えるべきであると考えます。ギリギリの人を救うことが大切です。

宣べ伝えることは、人々を教化することも含まれると考えます。

ルカによる福音書 9章

9しかし、ヘロデは言った。「ヨハネなら、わたしが首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入ってくるこんなうわさの主は。」そして、イエスに会ってみたいと思った。

人の首をはねるのは悲しいことです。このようなことにならないようにしなければなりません。大き過ぎる富と権力を持つ人が出ますと人の間で貧富の差が激しくなる可能性があります。

ルカによる福音書 9章

16すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。

17すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

それぐらいでは少ない、何もできないと考えられることがあります。しかし、小さな差が大きな差に繋がることはあります。皆が協力関係を構築しますと大きな成果に繋がることはあります。少しやることが大切なきもあります。心を通わせることが大切です。富が少ない状況では仕事が多くあり裕福な状況より貢献できる機会が多く、かえって深く幸せを感じられることも考えられます。

経済学におきましても、この人を救いたいという情熱が大切です。ある一人を救いたい、次の人も同様に救いたい、その次の人も同様に救いたい、・・・となり皆が賛同するマクロ経済対策になると考えます。ミクロ経済学の理論モデルも現実の一面を理解するために解釈する必要があります。

奈良時代の人々が鉄などを自分だけで持たず自分のためだけに使わなかったためにできましたのが大仏であるとも考えられます。富が国内に止まります。個人が利益を得ることだけを考えますと、自分の足場である組織が弱くなっていくことがあると考えます。財政再建のため政府が募金活動をするのも良いと考えます。寄付をされますと感動を与えます。わたしたちは一つになれますと仲良くなれます。

聖書と直接関係ないかもしれませんが、日本に大文字山という山があります。お盆の八月十六日には送り火が灯され、五山の送り火として有名です。妙、法、船形と鳥居形にも点火されます。正しい起源を探りますとともに意義を考えることも重要であると考えます。国土の約四分の三を山で占める日本が経済成長を続けようとしようとどうしても高い所まで開発しないといけないと考えやすいです。それは正しい部分があります。しかし、毎年恒例の行事が行われますことにより少なくともあの場所のあの高さまでは開発できません。送り火が全く見えなくなるような巨大な塔を建てることも許されていません。環境保全や災害対策も重要です。火山は噴火することもあり得ます。防火対策も重要です。わたしたちがそこは山と思っている所が川のようになることがあるのが洪水の脅威です。日本は何代にも亘り成長しています。そのようなことを認識させてくれることもやはり偉「大」です。わたしたちはそれぞれが大きい存在であると思わないために支え合い絆を作り幸せになれるところがあります。時にはわたし

たちよりわたしたち以外の方が大きな存在であるとも必要です。わたしたちは普段はビジネスなどの高い目標を目指し、成功しますと大きくなったと考えやすいです。そのようなわたしたちを見守り続けています。

聖書も大仏も大文字山も、人々がそれぞれに何かができると思ふことによりつついばらばらになりがちな心を時には一つにするよう戒めているのではないかと考えます。

ルカによる福音書9章

22次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」

イエスは排斥されていく側にいます。

ルカによる福音書9章

48言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」

最も弱く、苦しんでいる人は最も偉い思いをしています。

ルカによる福音書9章 弟子の覚悟 (マタ8 19-22)

57一行が道を進んで行くと、イエスに対して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人がいた。

58イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」

59そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。

60イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。」

61また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。」

62イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。

計画を立てますと計画倒れになることはあります。他の事をしてから何かをしようと考えますとうまくいかないことがあります。後でやることを最重要視していないことがあります。後回しにしても良いと思うことは今すぐしなくても良いと思うことです。最初に行うことにより次の状況が変化します。追い込まれたとき、それまででない力が出ることもあるかもしれません。まだなすべきことがあれば追い込まれていない場合もあります。目の前のできることを前向きにするべきです。

ルカによる福音書10章

2そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよ

うに、収穫の主に願いなさい。

イエスの教えを聞き伝え行きますと収穫が多くなるのに、それに従事する人は少ないことがあると考えます。

ルカによる福音書10章

4 財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。

財布も袋も履物も普段は必要です。誰かに会いますと挨拶します。しかし、緊急時で必死にならなければならない場合があります。イエスの教えを広めるために派遣することがそれ程価値の高いことであると考えられています。

ルカによる福音書10章

7 その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。

このような教えを広めることは報酬を得るにふさわしい働きであると考えられています。

ルカによる福音書10章

20 しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

イエスの教えを聞き入れ修得することにより様々な良い結果が出るかもしれませんが、そのようにして良い結果が出ることを喜ぶのではなく、良い時も悪い時も自分たちがそれぞれの役割を果たして生きられたこと、導かれたことに感謝し肯定的に考えることができることが幸いであると考えます。

ルカによる福音書10章

21 そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。

人は知恵をつけ賢くなりたいと思います。しかし、賢いだけ思いますが、新しい考えなどを受け入れられなくなることもあります。幼子のように先入観をなくし受け入れることにより分かることがあるかもしれません。聖書の教えは大人が幼子の性質を取り入れることにより分かることがあると考えます。

賢くなりますと先のことを上手く考えたりできるようになるかもしれませんが、予測は当たらないことがあります。一瞬一瞬に予想以上の未来を築き上げていくことができることは幸いです。

ルカによる福音書10章

36 さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」

ここは四福音書の中でルカによる福音書のみにあります、善いサマリア人のお話の一部です。9章で述べられていますように、イエスはサマリア人から歓迎されませんでした、そのようなサマリア人でも追いはぎに襲われた人を介抱する人はその人の隣人になったと考えられています。

わたしたちはどのような立場に置かれましてもその時々にはできることをすることが大切であると考えます。

ルカによる福音書10章 マルタとマリア

38一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。

39彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。

40マルタは、いろいろのもてなしのためにせわしなく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

41主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。

42しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

もてなしのためにたくさん働くことよりもイエスの教えに聞き入っている方が良いと言われています。聞くことが最も大事な場合があります。多く仕事をするより未来に繋がる最初の一步が大切であることがあると考えます。土台をしっかり固め仕事を積み上げることが望ましいと考えます。

わたしたちは忙しかったりしますと視野が狭くなり全体を見なくなることがあります。「多くのことに思い悩む」より、「ただ一つの必要なことをする」ことが大切であると考えます。

聞くことも奉仕であると考えます。

ルカによる福音書11章

8しかし、言っておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。

どうしても必要なものはしつように求めなければなりません。

ルカによる福音書11章

9そこで、わたしは言っておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

何かを探し求めますと、得られる方へ向けた努力や行動をとることができるようになります。長期間かかることもあるかもしれませんが、目標達成へ向かっていくことができると考えます。

目標達成のための第一歩は、求め、探すことであると考えます。

ルカによる福音書11章 汚れた霊が戻って来る (マタ12 43-45)

24「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。

25そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。

26そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうになると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。」

人の悪い考えや行いは巡り、さらにその人を悪い状態に導くと考えます。『ダンマ・パタ (法句経)』第十八品二四〇と同様の意味であると考えます。

悪い心でその場の状態を改善しましても、巡って以前より悪くなることはあり得ると考えます。

ルカによる福音書11章

28しかし、イエスは言われた。「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」

わたしたちは特定の人を幸いであると考えることがあります。遠い先にある結果を得ることだけが幸いではなく、一瞬一瞬にも幸いがあると考えます。

「神の言葉を聞き、それを守る人」が真の幸いであるとのこと。幸いとは徳のあることができることであると考えます。

ルカによる福音書11章

32また、ニネベの人々は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。」

教える方も偉いですが、それ以上に聞いて悔い改める人が偉いという考えが普及しますと、皆よく聞くようになり世が良くなっていくと考えます。

ルカによる福音書11章

52あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。」

律法の専門家が、救いを知らせず、妨げになる場合があるとのこと。

ルカによる福音書12章

5だれを恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。そうだ。言っておくが、この方を恐れなさい。

恐るべき存在を恐れておきますと、恐れてはならない存在を恐れなくて済むと考えます。

ルカによる福音書12章 「愚かな金持ち」のたとえ

13群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」

14イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」

15そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」

16それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。」

17金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思いを巡らしたが、

18やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、

19こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』

20しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。

21自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

たくさん財産や物を持っていても誰にでも死はおとずれます。それらは自分で持っても神のものでもあ
ると考えます。神に仕えるように運用しなければなりません。次世代の人たちのことも考えなければなりません。
人間の価値は持ち物によらず存在そのものにあります。自分に与えられる時間には限りがあります。

最初に多く稼ぎ、十分に貯めてから使おうとするのは良いとは言えないと考えます。生きるために今すぐ必要な
分がいつもあることが望ましいと考えます。

需要を喚起することはビジネスにおいては重要かもしれませんが、次々に欲求が充足されるということは人が不
足に思うことも増えるということです。二番目、三番目、…の需要を満たしている間にいつの間にか時が流れるこ
とも考えられます。

最も大切なことからしなければなりません。

ルカによる福音書12章 分裂をもたらす (マタ10 34-36)

49「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。

50しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。

51あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分
裂だ。

52今から後、一つの家に五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。

53父は子と、子は父と、

母は娘と、娘は母と、

しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、

対立して分かれる。」

問題が起こりどうしても解決しなければならないなら、対立して話し合わなければならないときもあります。こ
こで言う対立は三人と二人の対立です。それは明らかな善悪に関する対立ではなく、むしろ小さな差であると考え

ます。物事が正しいと決まっていく過程においてもこのように僅差しかない場合があり、しっかりとした審議が必要な場合があります。家庭で目上の方を敬うことは大切ですが、権威的になり過ぎますと問題が生じることもあります。

時にはやり方を少し変えてみるのも良いかもしれません。

ルカによる福音書12章 時を見分ける（マタ16 2-3）

54イエスはまた群集にも言われた。「あなたがたは、雲が西に出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言う。実際そのとおりになる。

55また、南風が吹いているのを見ると、『暑くなる』と言う。事実そうなる。

56偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。」

たとえ今が不幸だと思っても、今この時にしかできないことがあります。今何をするのが適切か考え何かをするタイミングを計ることは大切です。

ルカによる福音書13章

2 イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。

3 決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。

災害に遭遇した人を見て、「罪深い者」だったから災難に遭ったのだと考えてはならないと考えます。今は災害に遭わなくてもいつ遭うかわかりません。災害を教訓に対策を考えなければならぬと考えます。災害の教訓は語り継いで生かされます。

特に悪くなくても悔い改めを適切にしなければ持続的な発展が望めないことは考えられます。悔い改めなければ滅びることがあるかもしれません。

ルカによる福音書13章「実のならないいちじくの木」のたとえ

6 そして、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。

7 そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』

8 園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。

9 そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』

何年か経て結果が出ないと諦められることがあります。しかし、援助しもう一度やってみる必要がある場合があると考えます。

古い事を捨ててしまわなければならない場合と、もう一度やってみる必要がある場合があります。新しくする時

でも伝統の力も大切です。

ルカによる福音書13章

24「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。

利潤を得ようとすることは誰でも考えます。わたしたちはギリギリの境遇を乗り切ることが重要です。自分が狭いとか困難であると思う所を通ることが大切であると考えます。ずっと順調の人もいるかもしれませんが、あまりありがたさを感じられず、幸せに繋がらないことがあるかもしれません。あまり多くの人が殺到しない所から入ることが望ましい場合もあり、そのような所を通ることができることも幸いであると考えます。そこから道が開けることがあるかもしれません。

福音書の教えを受け入れることが狭い戸口から入ることかもしれません。このような教えから入りますと望ましい環境が広がると考えます。また、そのような教えも本当は狭いものではないのかもしれません。

ルカによる福音書14章

13宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。

14そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人は何かができなくてそのことを自覚している人々です。お返しのできない客を招待することは幸いであると考えられます。お返しのできない人から与えることが大切です。自分に足りないものがあるから与えてもらえるものがあります。

経済は永く続かないといけないと考えます。お返しを当てにするのは見える範囲の等価交換です。それも大切ですが、お返しを当てにして招いてはいけないことがあると考えます。お返しのできないような人に良くすることが大切です。また、良くしてもらえる人は幸いです。

ルカによる福音書14章 「大宴会」のたとえ（マタ22 1-10）

15食事を共にしていた客の一人は、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。

16そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、

17宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。

18すると皆、次々に断った。最初の人、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させていただきます』と言った。

19ほかの人、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させていただきます』と言った。

20また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言った。

21僕は帰って、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って、僕に言った。『急いで町の広場や路地へ出

て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』
22やがて、僕が、『御主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席があります』と言うと、
23主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。
24言っておくが、あの招かれた人たちの中で、わたしの食事を味わう者は一人もいない。』

この盛大な宴会を催そうとしている人はお返しを求めているのではないと考えます。良いものが与えられているのに、自分たちだけで行う事を優先させますと、得られなくなるものが生じる可能性があります。苦しい方へ向かう可能性もあります。好意を受け入れる方が良い場合があり、チャンスが与えられているのに気付かず生かしていないこともあるかもしれません。既に与えられていることに気付き受け入れ生かすことが大切であることがあると考えます。

わたしたちがその時優先であると考えていることがベストな選択か考え直してみる機会になります。また、わたしたちは何かができないと愛さない、愛されないという考え方に偏っていないか見直す機会にもなります。

ルカによる福音書14章

27自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。

どん底の状態から改善が始まることがあると考えます。苦しく先が見えないのに、未来が幸いであると信じ歩み続ける必要がある場合があると考えます。

ルカによる福音書14章

33だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

既に持っている物が多いと得られない物が生じると考えます。失うものがないとこうするしかないということができるようになります。それは神に頼むことで象徴されることであると考えます。わたしたちが持っていると思うものを失うことにより未来が開けることがあると考えます。

ルカによる福音書14章

34「確かに塩は良いものだ。だが、塩も塩気がなくなれば、その塩は何によって味が付けられようか。

一人一人が特長を持つことにより組織に特長ができます。学校にも特長が必要です。

ルカによる福音書15章 「見失った羊」のたとえ (マタ18 12-14)

1 徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。
2 すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。
3 そこで、イエスは次のたとえを話された。

4 「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。

5 そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、

6 家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。

7 言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

罪人にも日はさしてきますし雨は降ってきます。それをモデルにすべての存在を大切にすることが大切です。

一人の罪人が悔い改めることにより厚生が改善されます。一人が変わることにより世界が変わります。弱い所にこそ恵みが必要です。

皆でしなければできないことが最も重要なことであると考えます。

ルカによる福音書15章 「放蕩息子」のたとえ

11 また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。

12 弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。

13 何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。

14 何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。

15 それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやっけて豚の世話をさせた。

16 彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物を与える人はだれもいなかった。

17 そこで、彼は我に返って行った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。

18 ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。

19 もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください』と。』

20 そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

21 息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』

22 しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。

23 それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。

24 この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。

25 ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。

26 そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。

27僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』

28兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。

29しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。

30ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』

31すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前ものだ。

32だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しむ喜びのは当たり前ではないか。』

父親から譲り受けた財産を道楽によって使い果たした弟の話です。財産を多くもらい過ぎますと、このようになる可能性もあります。多くもらわない方が良い場合もあります。

親元を離れ、自由と独立を求め故郷を後にして成功する人もいますが、生きる厳しさを思い知らされることもあるかもしれません。思うようにならないことはあります。自由と独立を求め過ぎますと苦勞するかもしれません。しかし、「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と心から悔い改め帰宅したため、父親は罰することなくすべてを赦し歓迎しています。このような考え方、言い方をすることから救いが始まっています。悔い改めることにより成果に繋がるがあると考えます。悔い改めの価値の高さが示されていると考えます。

弟は実際に死んでいたわけではありません。ここで言われています「生き返り」とは、このような考えに変わることであると考えます。

兄の方は既に報われています。父の歓迎ぶりを兄は妬み父に不満を言います。喜ばしい日々がつまらない日々が変わっています。それに対して父は兄を諭しています。たとえ恵まれていましてでも考え方、言い方の違いで雰囲気が変わります。父と同様に兄も弟を歓迎しますと父と同じ考えになります。浪費をしても良いということではなく、それを心から悔い改めますと良くなり次に繋がると思えます。

正しいと思う人も正しくないと思う人も悔い改めることによって良くなるがあると思えます。

ルカによる福音書16章 「不正な管理人」のたとえ

1 イエスは、弟子たちにも次のように言われた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄遣いしていると、告げ口をする者があった。

2そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』

3管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。

4そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。』

5そこで、管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがある

のか』と言った。

6『油百バツ』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バツと書き直しなさい。』

7また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。』

8主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。

9そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。

10ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。

11だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあなたがたに本当に価値のあるものを任せるだろうか。

12また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか。

13どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。』

金持ちの主人からお金の管理を任された管理人が主人のお金を不正使用しそのことを告げ口されるお話です。不正に得たお金を自分のためだけに使えば解雇されると考えられます。そこで、この管理人が得たお金で主人に借りのある人たちから借りの一部を肩代わりし解雇を免れようとしています。お金の不正使用は肯定できませんが、このような抜け目のないやり方を主人は褒めています。

富は人々のために使わなければならないと考えます。不正にまみれた富は他人のもので、お金を人のために使い、味方を作るために使うように教えていると考えます。貯めておくだけですと友は離れて行きますし、お金の流れが停滞します。

得たお金を損した人を償い、味方を作るために使うように教えていると考えます。お金にクリーンな世を作ることが福音書の目指すところであると考えます。

大きく栄えたビジネスは衰退するかもしれません。愛をもって臨むこと全般が仕事であると考えます。

「神と富とに仕えることはできない。」とありますが、人にはそれぞれ資質があり、境遇があり、生かされ方があります。

ルカによる福音書16章 律法と神の国 (マタ11 12-13)

14金に執着するファリサイ派の人々が、この一部始終を聞いて、イエスをあざ笑った。

15そこで、イエスは言われた。「あなたたちは人に自分の正しさを見せびらかすが、神はあなたたちの心をご存じである。人に尊ばれるものは、神には忌み嫌われるものだ。

16律法と預言者は、ヨハネの時までである。それ以来、神の国の福音が告げ知らされ、だれもが力づくでそこに入ろうとしている。

17しかし、律法の文字の一画がなくなるよりは、天地の消えうせる方が易しい。

18妻を離縁して他の女を妻にする者はだれでも、姦通の罪を犯すことになる。離縁された女を妻にする者も姦通の罪を犯すことになる。」

法を守ることも大切です、「神の国の福音」も大切です。

ルカによる福音書16章

25しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。』

あの世があることやあの世で対話ができることは考えられませんが、長い間には、人々の間で、ある程度幸せは一定であると考えます。それを励みに生きられることが望ましいと考えます。

ルカによる福音書17章

5使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、
6主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。」

6節のようなことは実際には考えられませんが、信仰の量は少しでも良いようです。気付いた善行は少しでも行うと良いと考えます。それが次の展開に繋がります。

ルカによる福音書17章

9命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。
10あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」

命じられたことだけをすれば十分ではなく、追加に奉仕をすることが望ましいと考えます。命じられたことをした上で、追加の奉仕ができることが望ましいと考えます。

ルカによる福音書17章

11イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。
12ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、
13声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。
14イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。
15その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。
16そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。
17そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。」

18この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」

19それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

重い皮膚病を患っていても特に悪い人であるわけではないと考えます。差別されることはありません。そのように気にかけてもらえますといやされます。

十人が重い皮膚病をいやしてもらった後、一人だけがイエスの所に戻って来て感謝しています。良いことをしてもらった後、良いことがあった後に感謝することが大切です。イエスはこの戻って来た人にだけ「あなたの信仰があなたを救った。」と言っています。このような人が良くなるというわけです。

悩みや問題が生じた時にだけ絆を作るだけでなく、常に皆で心を合わせる大切であると考えます。

ルカによる福音書17章

20ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。

21『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」

神の国は人々の間にあるようです。人の心の中など見えないことにも大切なことがあります。人と人との関係でその場が良くなることがあります。

ルカによる福音書18章「やもめと裁判官」のたとえ

1 イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。

2 「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。

3 ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。

4 裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後に考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。

5 しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』

6 それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。

7 まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。

8 言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

現代にはこのような考えを抱く裁判官はおられないと信じます。しかし、ここに登場する裁判官は最初取り合おうとしなかったとのことでした。

権力者には取り合ってもらえないこともあるかもしれません。しかし、適切な事柄なら絶えず求めることが大切で、それにより願いが叶う方に向かうと考えます。祈り頼むことが大切であると考えます。

「昼も夜も叫び求めている」人々のことを「選ばれた人たち」としています。小さい結果はすぐに出せると考えます。

ルカによる福音書18章「ファリサイ派の人と徴税人」のたとえ

9 自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。

10 「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。

11 ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。

12 わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』

13 ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』

14 言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。』

『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』このような考え方を持つ方が適切であるようです。改めていくことが生きるということであると考えます。

ルカによる福音書18章

17 はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。』

わたしたちは素直に受け入れることが大切であることがあります。また、子供はこのようにしたら必ず育つと大人が考える確定した方法があるとは限らないと考えます。決まり切った答えがないために未来が発展する可能性が広がるがあると考えます。そこに子育ての喜びや楽しみがあるかもしれません。

大人が子供の立場で物事を考えなければならないこともあります。

ルカによる福音書18章

21 すると議員は、「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。

福音書の教えは大人向けの人間教育でもあると考えます。

ルカによる福音書18章

22 これを聞いて、イエスは言われた。「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」

「持っている物をすべて売り払い」ますと必死になれます。自分が多く金を持つことによって他のものが得られなくなることもあり得ますし、金持ちが何も与えることなくさらに何かを得ることは難しいと考えます。

何かを得たいと考えますと、自分の価値観や考え方を変える必要がある場合があると考えます。無一文にならな

くても、そのような心のある議員は人々から愛されます。

わたしたちは愛を注がれていて受け入れますと良くなることを退け、自分のやり方を選択していることがあるかもしれません。

ルカによる福音書18章

41「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。

機会を逃さず、障害があっても求め続け、必要不可欠なしてほしいことをはっきり伝えることが大切です。

ルカによる福音書19章 徴税人ザアカイ

1 イエスはエリコに入り、町を通過された。

2 そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。

3 イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。

4 それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。

5 イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」

6 ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。

7 これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」

8 しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」

9 イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。」

10 人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

現代では金持ちでもルールを守っていると犯罪ではありません。わたしたちは何も持たずに生まれ亡くなります。税はきちんと支払わなければなりません。しかし、金持ちの状態も罪の一つと表現されていると考えます。犯罪ではなくても何かを多く持っていましたら、より多くをお返しすることを考えるのが望ましいと考えます。お金は自分も周囲も良くなるように使うのが望ましいです。得て当然と考えず、貧しくなる人がいないか考えることも大切です。

罪ある人がこのように考え言えるように導くことがイエスの役割であり一つの人間教育であると考えます。気にとめてもらうことにより良くなることがあります。既にある大切なことも確認し、その上で新しいことを教えることが大切であると考えます。

ルカによる福音書19章

20 また、ほかの者が来て言った。『御主人様、これがあなたの一ムナです。布に包んでしまっておきました。』

与えられた小さい才能を少しでも伸ばし生かすことを考えることが大切であると考えます。また、わたしたちが

小さいと考える才能も本当は小さくないのかもしれませんが。インフラが整備されていますと学びに費やす時間を増やすことができると考えます。

ルカによる福音書19章

40 イエスはお答えになった。「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。」

イエスの弟子たちが話す自由を奪われましても、自然の流れが適切な方へ導くと考えます。発言しすぐに事態を好転させよう、解決しようとしなくても中長期的には適切な方へ向かうと考えます。

ルカによる福音書19章

44 お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、神の訪れでくださる時をわきまえなかったからである。」

イエスの教えを受け入れるべき時には受け入れなければならないと考えます。事を行うタイミングを間違えますと失敗する場合があります。

ルカによる福音書19章 神殿から商人を追い出す (マタ21 12-17、マコ11 15-19、ヨハ2 13-22)

45 それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出し始めて、

46 彼らに言われた。「こう書いてある。

『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』

ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。」

47 毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、

48 どうすることもできなかった。民衆は皆、夢中になってイエスの話に聞き入っていたからである。

社会で行うビジネスには多くの職業が含まれます。ビジネスが否定されると、多くの職業が否定されます。祈るべき時と場所では祈るべきであると考えます。

ここでは、ビジネスとは違うお話が民衆に受けています。

ルカによる福音書20章

17 イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。

『家を建てる者の捨てた石、

これが隅の親石となった。』

わたしたちが物を捨てるということは、その時のわたしたちの思いを反映することでもあります。捨てられた教えはまたどこかで活用できるかもしれません。

ルカによる福音書21章 神殿の崩壊を予告する (マタ24 1-2、マコ13 1-2)

5ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。

6「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。」

人の手を加えました立派な建物を過信してはいけなく考えます。何かを見事であると思っても見とれ過ぎない方が良く考えます。見事であると思う物でもいつかは完全に崩壊すると思えるぐらいが良いのかもしれない。完璧であるから終わりが近づくことがあるのかもしれない。人が作った物などがよく売れることは望ましいですが、その後に富が集中することもあると考えます。

先が見えないのに希望が持てることも幸いです。

ルカによる福音書21章 終末の徴 (マタ24 3-14、マコ13 3-13)

7そこで、彼らはイエスに尋ねた。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか。」

8イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。

9戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。」

10そして更に、言われた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。

11そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。

12しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。

13それはあなたがたにとって証しをする機会となる。

14だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。

15どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。

16あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。

17また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。

18しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくなる。

19忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。」

実際に世の終わりが来るとは考えられませんが、悲観的な予測データが示されることがあります。順調であったことが行き詰まることもあります。それを受け入れることは今のわたしたちの在り方を改めるために必要である場合がありますが、すぐに悲観的な状況が実現するとは限りません。あわてて解決しようとしてはいけないことがあると考えます。本当に追い詰められているか考えなければなりません。

天災はともかく、恐ろしい現象が起こる前にはイエスの教えを受け入れ行こうような人が軽視されているのかもしれない。そのような人が迫害されることが原因となりその後望ましくない現象が起こるのかもしれない。悪くなる前には良い人が迫害されている可能性があります。そのように迫害される時が神の意志やイエスのことを示す機会です。

神の意志は人間の言葉では簡単には示せないかもしれません。忍耐することが重要であると考えます。

ルカによる福音書21章 エルサレムの滅亡を予告する (マタ24 15-21、マコ13 14-19)

20「エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

21そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ち退きなさい。田舎にいる人々は都に入ってはならない。

22書かれていることがことごとく実現する報復の日だからである。

23それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ。この地には大きな苦しみがあり、この民には神の怒りが下るからである。

24人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

ルカによる福音書21章 人の子が来る (マタ24 29-31、マコ13 24-27)

25「それから、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。

26人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。

27そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見ると。

28このようなことが起こり始めたら、身を起して頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ。」

実際にこのようなことが起こるとは考えられませんが、行きつくところまで行かないと終わらない悪い時もあり得ます。嫌な人が栄える時はあり得ます。そこで人々は不安になります。しかし、とことんまで行きますと、イエスの言動が理解でき活路を見出すことができ、また良くなっていくようです。窮すれば通ずようです。他のお話も、イエスによって解放され救われる形になっているものがあります。

ヨハネの黙示録からも全体を通して同様のことを学ぶことができると考えます。

ルカによる福音書22章

19それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」

最後の晩餐でイエスと食事を共にした弟子たちはイエスを理解しておらず、最後には皆見捨てて逃げ裏切りしました。しかし、そのような人たちにもイエスは功績などに依らずパンやぶどうの実から作ったものを与えています。そのように都合よく生きる所がありますがなお愛され生かされているのが人間です。ですから人間は悔い改めやり直すことができます。

人間教育は必ずしも優秀な人だけにすれば十分ではなく、多くの人の弱い所を認め合いそこから次の一步を適切に踏み出すことを促すことも含まれると考えます。

ルカによる福音書22章

26しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようにになりなさい。

人の上に立つ人がいちばん仕えるような人になりますと、組織はうまくまとまると考えます。

ルカによる福音書22章

35それから、イエスは使徒たちに言われた。「財布も袋も履物も持たせずにあなたがたを遣わしたとき、何か不足したものがあつたか。」彼らが、「いいえ、何もありませんでした」と言うと、

わたしたちの周りにはなければならぬでなんとかやっつけていけるものもあります。必要最小限のものを獲得しその上で追加の繁栄を目指すのが適切です。

ルカによる福音書23章

3そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。

周囲が言っていることは周囲の考えがそのようになっているということです。人への評価は、わたしたちが考えていることです。

ルカによる福音書23章

21しかし人々は、「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫び続けた。

現代では実際に人を十字架につける人はいないと信じていますが、人を苦しめる人が偉いわけではありません。わたしたちが苦しめる側に立っていないか考える機会になります。多く持つ人が身を切るからうまくいくことがあります。

ルカによる福音書23章 十字架につけられる (マタ27 32-44、マコ15 21-32、ヨハ19 17-27)

26人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。

27民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。

28イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。

29人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。

30そのとき、人々は山に向かっては、

『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言い、

丘に向かっては、

『我々を覆ってくれ』と言い始める。

31『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。』

イエスはこれから亡くなっていく自分のために泣くのではなく、自分たちと子供たちを大切に思うように教えていると考えます。年配の方も若い方も大切です。

わたしたちには様々な生きる意味があります。

ルカによる福音書23章

43するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

イエスは死の直前まで教え続けました。イエス以外の十字架に付けられていた犯罪人の一人が死の直前に悔い改めました。死の直前でも悔い改めると、天国に行けると考えられています。遅くなりましても悔い改めることは大切であると考えます。

ルカによる福音書23章 イエスの死 (マタ27 45-56、マコ15 33-41、ヨハ19 28-30)

44既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。

45太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。

46イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。

47百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。

48見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。

49イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちは遠くに立って、これらのことを見ていた。

イエスは教えやいやしを与えるばかりでしたが、様々なことに向き合い果敢にチャレンジしました。わたしたちは完全にはイエスのようには生きられません。命は大切にしなければなりません。しかし、様々なことに挑戦することはできます。イエスをモデルに奉仕することは大きな仕事であるとも考えられます。

すべてを委ねることが適切であり、それにより新しい世界が開ける場合もあります。すべてを委ねることは南無阿弥陀仏と同様です。わたしたちはどうしても解決できないと思う時、無力であると思い委ねます。それが解決への道であることがあります。

教育者が教える中では身を削るような苦しい時もありますが、得るものも多いです。人間教育は先生にしかできないことではなく、あらゆる所で可能です。人間教育はビジネスとしてやること以外にも大切なことがあります。人が育てば経済は活性化します。

病気になるますと頑張れなくなることがあります。病気は自分の頑張りだけで治るとは限りません。自然治癒力や周囲の支えが必要です。自力に頼って生きてきた人でも最期の時に悔い改め委ねることが必要になります。

ルカによる福音書24章

6あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだ、ガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思

い出しなさい。

亡くなった人が実際に生き返るとは考えられませんし教えられません。人が亡くなられますと悲しいですが、少しずつ忘れていかなければなりません。亡くなった人が実際に生き返ることを現実的には否定することにより人間教育などに生かすことができるようになると思います。断絶がありまして何らかの形で引き継がれるのが現実です。終わりだと思ふ時の次の生き方は大切です。失ったと思う時に得ているものがあるかもしれません。人の考えが変わるということであると考えます。そっくりそのまま状況が元に戻るのではないと考えます。元に戻ることはここでの復活の意味ではないと考えます。戻そうとするのではなく前向きに進まなければならないと考えます。わたしたちにはお別れする人がいましてまた新しく出会える人もいます。その時々状態に依存し、同じ人とでも、再会の時また新しく出会っているとも考えることができます。会えなくなりましたのに在学中の言動が人生を導く教師も望ましいと考えます。長い目で見ますと、すぐに出ている結果は良いとは言えないかもしれませんが、悪いと思っていることが良い方に繋がることもあります。わたしたちがその時々のように思っているということです。成長は終わりと思ひましても人は成長します。理屈やデータは重要ですが、それ以外にも大切なことはあります。別の課題にも目を注ぐ必要があることもあると考えます。わたしたちはフィクションを読み成長することもあります。自分が短所と思っている所が他人からは長所であることもあります。自信が励みになることもあります。人の様々な思いが世を作り、人が発展であると思うことが他の存在からは正反対の時もあります。わたしたちは他の存在と共存し生きている所があります。

イエスは後の栄えのため去っていくことを教えた人でもあります。後進に道を付けられることも重要です。自分に利益がないと思ひましても、様々な奉仕をすることが自分のためになることがあります。去る過程で奉仕する喜びを教えられることも考えられます。

わたしたちは自然の一部を負かして生きている部分がありますが、一部を負かされている自然はわたしたちより偉大です。ここで言われています神から学べることの一つは、部分的、短期的には負け、全体的、長期的に勝つような生き方かもしれません。わたしたちには負けるが勝ちの場合があります。

祈りは、すぐに出ている結果を良い結果であるとのみ考えず、広い視野と長期的展望に立ち考えることでもあると考えます。落ち着いて時間をかけて考えることでもあると考えます。祈りを通じ持っているものを確認し、人間はそれほど強くないことを認識しますと、物事に安全に向かうことができます。感謝できることは賢明な判断や適切な人間教育に繋がると考えます。一歩手前の状態のまま頑張っていないか考える機会でもあります。平和に繋がります。

人は等価交換だけでは生きられないと考えます。何かを新しくすることにより新たな経済問題が生じることもあります。人間教育が経済やビジネスを支えます。経済の成長を人間の成長から見る機会になります。

わたしたちは現実的に考えましても完全には分からない部分が残ります。人間は何かを行いそれを自分の中で悔い改めることが大切です。悔い改め振り返るような所にチャンスがあることがあります。悔い改めはそれまでの言動が悪い時にも大切ですが、本当の自分に立ち帰ることもあります。

事業の利潤は新規参入が起きますとゼロに向けて減少することがあります。その時々価格以上の奉仕ができると望ましいです。不採算部門は残そうとしますとともにそこから撤退することを考えることも必要です。そこですぐに終わりの時が来るのではなく、退出を考える中で新しさが生まれる可能性もあります。ある場所から去ろうと思えることもまた恵みであると考えます。大学教育以外にも大切な人間教育はあります。大学を伸ばそうとしま

すとともに、実際にその事業から退出しなくても、形を変えて生かそうとすることも求められているのかもしれない。

わたしたちがその場その時その場合に合う形で福音書を読みその教えを受け入れることによりイエスはわたしたちの心の中で日々復活を遂げています。

ヨハネによる福音書3章

15それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

わたしたちは実際に永遠に生きられるわけではありませんが、望ましいものを残すことにより人々の心の中で生き続けられると考えます。

ルカによる福音書24章

16しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

亡くなった人が再び現れるとは考えられませんし教えられませんが、わたしたちはある一つの基準で終わりであると考えたままですとその時に生まれているチャンスが見えないことはあると考えます。

ルカによる福音書24章

31すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

亡くなった人が再び現れるとは考えられませんが、二人の弟子はイエスが生前に語っていた復活の意味が分からなかったのが分かるようになったと考えます。

これからの可能性に気付くようになったと考えます。

ヨハネによる福音書20章

22そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

わたしたちにとって息ができることは命にかかわることであり大変ありがたいことです。イエスの教えを学んだ上で、こうすることが望ましいというインスピレーションや第六感が聖霊の働きの一つであると考えます。様々な現象に対して人によって感じ方が違うこともあります。良いムードも聖霊であると考えます。

聖書は一度読みましたら、あるいはマスターしましたら終わりになる書物ではなく、何度も読みますと、その時々心理に応じ様々な形でわたしたちを励まし導きます。これもまた聖霊の働きの一つであると考えます。時には新しい風を入れることも必要です。

いつも世界中の平和を祈ります。

<参考文献>

Thomas W. Walker, *Luke*, Interpretation Bible Studies (Louisville, Westminster John Knox Press, 2001) 住谷 眞

- 訳『ルカによる福音書』日本キリスト教団出版局2009年
- 大貫隆、名取四郎、宮本久雄、百瀬文晃編集『岩波キリスト教辞典』岩波書店2002年
- 越川弘英『十字架への道、復活からの道—レントとイースターのメッセージ』キリスト新聞社2005年
- 友松圓諦『法句経講義』講談社学術文庫1981年
- 友松圓諦『法句経』講談社学術文庫1985年
- 西田价宏『新約聖書講解シリーズ [3] ルカの福音書』イムマヌエル総合伝道団出版局2000年
- 日本聖書協会『聖書 BIBLE 和英対照 和文／新共同訳 英文／Today's English Version』2008年
- 林忠良『〈生かされ〉つつ〈生きる〉—よく生きる知恵：断章98—』関西学院大学出版会2013年
- 堀肇『弱さを抱えて歩む—聖書の世界に生きた人々【新約編】』いのちのことば社2014年
- 山下雅弘「聖書に学ぶ経済学—マルコによる福音書を中心に—」『奈良学園大学紀要』第1集2014年pp.117-147
- 山下雅弘「聖書に学ぶビジネス学—マタイによる福音書を中心に①—」奈良学園大学社会科学学会『社会科学雑誌』第10巻2014年pp.19-51
- 山下雅弘「聖書に学ぶビジネス学—モーセの律法を中心に—」奈良学園大学社会科学学会『社会科学雑誌』第11巻2014年pp.147-176
- 山下雅弘「聖書に学ぶビジネス学—マタイによる福音書を中心に②—」奈良学園大学社会科学学会『社会科学雑誌』第11巻2014年pp.177-232
- 渡辺和子『面倒だから、しよう』幻冬舎2013年

ここまで導いてくださいました神に感謝いたします。